

令和3年（年度）事業報告書

1 事業の成果

令和3年度は、対象者への支援の充実と収益の確保を目的に、以下の基本方針（基本姿勢）に基づいて事業・活動を展開しました。新型コロナウイルス感染症への対応については、国や県からの通達に準じた対応を取り、感染者を出さなかったことは1つの成果として考えています。

- (1) ストレングス・エンパワメントの視点に立ち、質の高い支援を提供する組織（支援面）
- (2) コアバリューに基づいて支援に取り組む組織（支援面）
- (3) 部門の枠組みにとらわれず、チームで業務に取り組む組織（収益面）
- (4) フレキシブルに新しい活動やアクションを生み出す組織（収益面）

2. 取り組み状況及び成果

(1) 支援の充実

2名の利用者が一般就労に結びつきました。ここ数年、一般就労に結びついた利用者がいなかったため、大きな成果と考えています。また、スタッフを増やしたこともあり、施設外就労に参加できる利用者が増えました。所内の製造部門においても、複雑な工程の作業に対応することができる利用者が増えており、長期的な視点による支援の成果が出始めていると実感しています。

一方、B型では心身の不調により、定期的な利用が難しい利用者もおり、今後の課題となっています。

(2) 収支の改善

法人の収入については、請負作業等、自主事業収入と給付金の2つが主な収入源となっています。理事的な収入としては助成金収入があり、令和3年度は丸紅基金からの助成金により、農作業小屋の改修工事を行うことができました。

製造部門については、令和2年度はコロナ禍の影響を受け収入が減少しましたが、令和3年度については、影響が小さくなりコロナ禍前の水準に戻っています。

清掃部門については、がんセンターの委託事業の契約満了により、除草作業やハウスクリーニング作業への展開をはかりましたが、コロナ禍の影響もあり、思うような成果は出ませんでした。

農業部門においては、大きな収益をあげることはできませんでしたが、農福連携事業をはじめ新規の請負作業を受注することができており、今後力を入れていきたいと考えています。

販売部門については、店舗売り上げが大きく減少しています。コロナ禍の影響もありますが、商店街への来街者自体も減少傾向にあり、行商や移動販売、ネット販売など店舗以外での収入を確保していくことが課題となっています。

法人全体としては、今期は大幅なマイナスとなりました。アクションプランの作成、振り返りを徹底し、収支の改善につなげていきたいと考えています。

(3) 体制の整備

関連法人であるリベラヒューマンサポートとの連携を含め、切れ目ない支援体制の構築を目標としました。特に、複数の福祉サービスを利用するケースがあり、双方で支援に関する情報を共有することに努めました。また、スタッフのQOLの向上、働き方改革への対応として、就業規則等を整備し、働きやすい環境づくりを進めました。

- ① すべてのスタッフ遵守すべき、ルール（コアバリュー）を作成し、支援・業務の基本としました。ただ、スタッフ全体での理解・遵守が徹底されない状況が散見され、今後も理解・遵守に向けた取り組みが必要と考えています。
- ② スタッフの勤務については、フレキシブルタイム制度を導入し、支援や業務の状況にあわせたフレキシブルな働き方ができるような体制としました。また、緊急事の対応による残業、休日出勤などへ対応を目的に36協定の締結、振替出勤などの制度を整備しました。
- ③ 支援・業務の質の向上に向け、各部門で毎月アクションプランを作成しました。取り組み内容の明確化、振り返りと次月のプランの作成というPDCAサイクルに基づいた支援を進めることを狙いとしています。法人のスーパーバイザーが中心となって、プランの作成や取り組み、振り返りなどを行っています。今後も継続していく取り組みとなっています。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	・就労継続支援A型事業所の運営	通年	法人事務所及び施設外	6人	利用者30名	40,715
	・就労継続支援B型事業所の運営	通年		5人	利用者10名	28,145

令和4年（年度）事業計画

1. 基本方針

昨年度に続き、対象者への支援の充実と収益の確保を事業・活動の柱とします。

- (1) ストレングス・エンパワメントの視点に立ち、質の高い支援を提供する組織（支援面）
- (2) コアバリューに基づいて支援に取り組む組織（支援面）
- (3) 部門の枠組みにとらわれず、チームで業務に取り組む組織（収益面）
- (4) フレキシブルに新しい活動やアクションを生み出す組織（収益面）

2. 支援面

(1) ストレングス・エンパワメントに基づいた支援

対象者が持つ強み（ストレングス）を活かし、就労や自立に向けた知識やスキルの習得に向けた支援を進めていきます。あわせて対象者が自らの生活や人生をコントロールし、働き続けることができるように支援を進めていきます。

(2) コアバリューに基づいた支援

前項のストレングス・エンパワメントの視点に基づいた支援を進めるにあたり、支援者として遵守すべきコアバリュー（ルール）を理解し、すべての対象者に最適の支援を提供できるようにします。

※ コアバリュー

- ① 笑顔とユーモアを忘れずに支援・業務に取り組もう
- ② ステークホルダーに対する義務と責任を果たします
- ③ 威圧的な対応、言葉づかいをゼロにします
- ④ 専門家としての資質の向上に努めます
- ⑤ 対象者のモデル（希望・目標）となる支援者になろう
- ⑥ チームで協力して支援・業務にあたろう
- ⑦ 失敗を恐れずにチャレンジしよう
- ⑧ 批判や否定はNG、改善に向けたアクションにつなげよう
- ⑨ 能力・権限・キャパを超えないようにしよう
- ⑩ 働こう！休もう！楽しもう！

3. 収益面（事業面）

(1) 生産活動（請負作業）

① 製造部門

高林製作所からの請負作業を中心に実施します。また、進東産業からの請負作業については施設外就労として対応することにより、収入増につなげていきたいと考えています。

② 清掃部門

現時点では、大きな収益を生み出すことは難しい状況にあります。ただ、一定のニーズはあるため、周知を継続的に行うことで、今後の受注に結びつけられればと考えています。

③ 農業部門

農福連携における作業依頼が増加しています。作業内容については農家ごとに異なるため、利用者の能力や体力等を踏まえながら、無理なく対応していきたいと考えています。

④ 販売部門

店舗売り上げとともに店舗外での収入増に向けた活動を展開します。行商や移動販売に加え、サブスクなど、新規の取り組みを行う準備をしています。会員や保護者の皆様をはじめ、店舗利用者への周知にも力を入れ、収入につなげていく予定です。

(2) 給付金収入

大きく2つのポイントがあります。一つ目は利用率を向上させること、もう一つは加算の獲得です。前者については、事業報告でも記載しましたが、定期的な利用が難しい利用者への支援の見直しが重要と考えています。後者については、関連法人の就労支援部門と連携し、一般就労に向けた支援に取り組んでいきます。

この点については、必要な知識やスキル等を明確にし、生産活動（請負作業）における支援に活用していきたいと考えています。